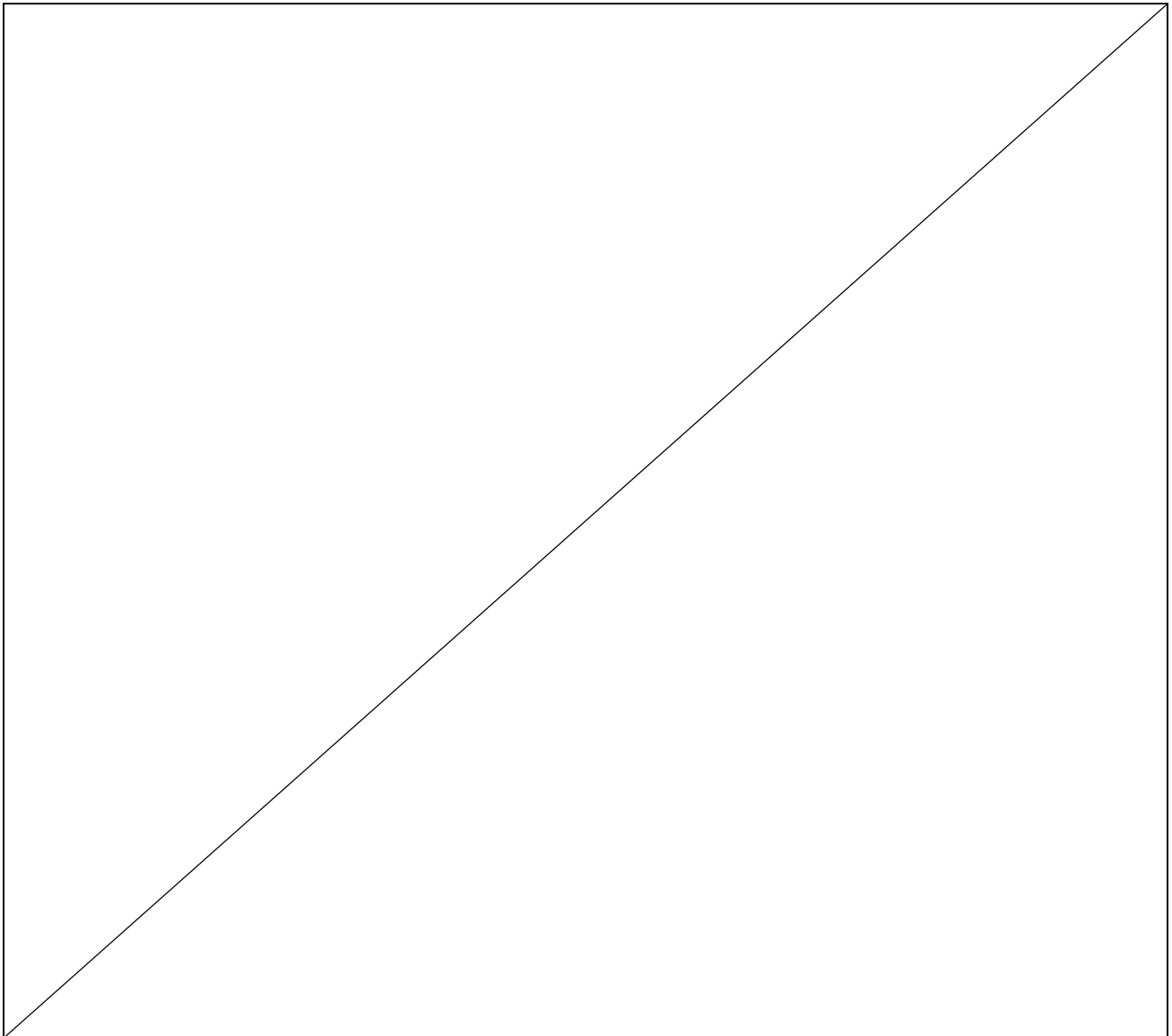


# 地域別まちづくり方針

地域別まちづくり方針は、町内すべての地域に共通するまちづくりの全体を示した基本構想と基本計画を踏まえ、本町を市街地域である音更、木野、宝来、駒場、十勝川温泉と農村地域の6つに区分し、それぞれの特徴や課題を整理して、地域の実情を踏まえたまちづくりの基本的な方向性を示すものです。

すべての施策は、基本計画、実施計画に基づき全町的に実施されますが、地域の状況に応じた対応が必要な施策の分野には、買い物、医療、交通、通信環境などがあります。それぞれの地域特性を踏まえ、各々の特長を生かしたまちづくりを進めていきます。

■ (仮) 地域区分に従った地図 ■



## 音更地域 ～ 行政や工業団地、良好な居住環境など複合的な機能を有した地域

音更地域は、役場をはじめ各種公共施設が整備され、行政機能が集積しています。また、高等教育機関として帯広大谷短期大学があります。役場周辺では河岸段丘の自然環境がまちに溶け込み、防風林や音更川など周囲の自然環境にも恵まれています。自然と調和した住環境のほか、工業団地もあり、複合的な機能を有した地域です。

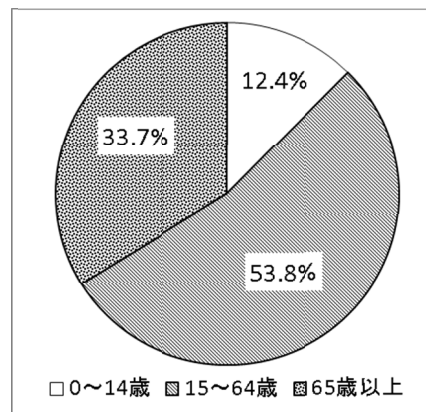
### <人口の動態>

音更地域の人口は8,000人です。本地域の人口はこの10年間（2010年比）で微減しています。

年少人口（15歳未満）の割合は12.4%、生産年齢人口（15歳以上65歳未満）の割合は53.8%、老年人口（65歳以上）の割合は33.7%となっています。

年少人口の割合は町平均（13.2%）より若干低く、老年人口の割合が町平均（28.7%）より高くなっています。

資料）住民基本台帳（2020年9月末時点、外国人を含む）



### <地域の現況>

- 第5期総合計画期間では、音更中学校の改築が完了したほか、音更保育園と音更西保育園が統合して新たに認定こども園になりました。
- 老朽化した高齢者福祉施設については2016（平成28）年度に建替が完了し、跡地は住宅地として整備されます。
- 2000（平成12）年に分譲を開始したI C工業団地は、2019（令和元）年度末現在、34社の企業が立地して分譲率が9割を超えています。
- まちの魅力を発信し町内外の人々の交流促進をはかるため、2022（令和4）年度の開業をめざし、道東自動車道音更帯広インターチェンジの南側に、「魅力発信エリア」として新たな道の駅と条例公園の整備を進めています。
- 道路網については、I C工業団地の企業立地に伴う大型車両の通行増にあわせて2014（平成26）年度に着工した物流団地通の整備が2020（令和2）年度に完了したほか、新たな道の駅周辺の道路整備を進めています。
- 空き家などを活用したコミュニティスペースづくりが行われています。
- 大型店との競合、経営者の高齢化や後継者不足などにより、商店などのおかれる現状は厳しさを増しており、事業承継支援の取り組みを進めています。

### ＜まちづくりの基本的方向＞

全体にバランスのとれた落ち着いた居住環境のある地域として、空き家対策や土地の有効利用などにより市街地の活性化をはかるとともに、自然に恵まれ多くの公共施設が整備された環境を生かし、住環境と自然が調和した子どもから高齢者まで安全・安心に暮らせる住みよいまちづくりを進めていきます。工業団地については、新たな工業用地確保の取り組みを進めます。

### 木野地域 ～ 商業集積と医療環境が整う、都市としての利便性が高い地域

木野地域には、国道 241 号沿いにショッピングセンターや飲食店などが多数立地しており、買い物や飲食などの場として町外からも多くの人を訪れる利便性の高い地区を形成しています。その他はおおむね住宅地で、宅地造成により広がってきた地域でもあります。東に音更川、南に十勝川の河川緑地が広がり、図書館、文化センターといった文教施設や鈴蘭公園、むつみアメニティパークなどのほか、医療環境も整っていることに加え河岸段丘があるなど、自然環境にも恵まれている地域です。

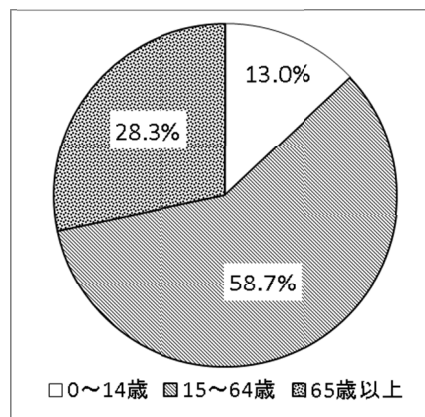
### ＜人口の動態＞

木野地域の人口は 23,706 人です。本地域の人口はこの 10 年間（2010 年比）で微減しています。本町で最も人口が多く、総人口の半分以上を占めています。

年少人口（15 歳未満）の割合は 13.0%、生産年齢人口（15 歳以上 65 歳未満）の割合は 58.7%、老年人口（65 歳以上）の割合は 28.3%となっています。

年少人口の割合は町平均（13.2%）と同じで、老年人口の割合も町平均（28.7%）とほぼ同じです。

資料）住民基本台帳（2020 年 9 月末時点、外国人を含む）



### ＜地域の現況＞

○第 5 期総合計画期間では、木野東の家および柳町学童保育所が整備されたほか、2018（平成 30）年度には木野東小学校の大規模改修が完了し、2019（令和元）年度から柳町小学校の大規模改修に着手しています。

○ワークショップを活用し、2016（平成 28）年度に、地域コミュニティを支援する環境づくりとして青葉公園を整備しました。

○本町で最も人口が集中する地域で、開発時期が異なるいくつかの地区（緑陽台、柳町、共栄、鈴蘭、下音更）を内包しています。空き家を活用した地域交流サロンの発足により、コミュニティの活性化がはかられている地区がある一方で、町内会の加入率の減少などによりコミュニティ活動に影響が出てきている地区もあり、各々の特性に配慮したまちづくりが必要です。

○2016（平成 28）年度、北海道に 4 つの台風が上陸・接近し、各地で本州並みの記録的豪雨が観測され、水害が発生したことから、国では、排水ポンプ設置用の釜場（※）整備のほか、音更川の堤防保護や河畔林伐採、河道掘削などを進めています。

○国道 241 号の木野市街地区間は、年間を通して交通量が著しく多いことから、交通事故が多発するほか、現状が2車線のため慢性的な渋滞が発生しています。2017（平成 29）年度から国による交通事故対策事業および防災対策として無電柱化事業が着手されており、工事の早期完成が望まれるほか、対象区間の延伸が求められています。

※釜場：水を集めるために作るくぼみ

#### <まちづくりの基本的な方向>

木野地域は、買い物や医療環境が整う、町民アンケートにおける満足度が最も高い地域です。商業施設などが集積した利便性の高い地域として、景観の形成などにも配慮しつつ、国道 241 号沿いの交通安全や交通混雑の解消のほか、地区の実情に応じたコミュニティの活性化などに取り組み、都市機能を維持するとともに、それぞれの地区にある資源や特長を生かした多様なまちづくりを進めていきます。

#### 宝来地域 ～ 自然環境に恵まれた閑静で新しい住宅街が広がる地域

宝来地域は、土地区画整理事業などで宅地開発が進められた地域です。比較的新しい住宅地として発展してきたため子育て世帯が多く、音更川と十勝川の河川や河岸段丘に囲まれ、自然環境にも恵まれています。隣接する木野地域の商業ゾーンとは音更川に架かる3本の橋（十勝新橋、宝来大橋、翠柳大橋）で結ばれています。

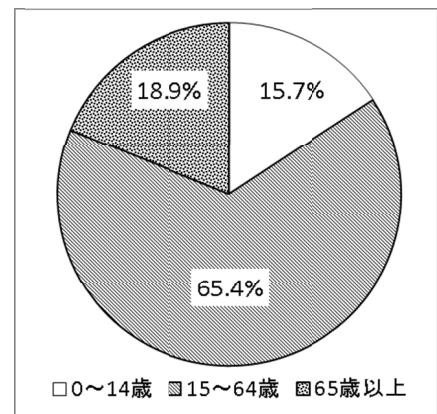
#### <人口の動態>

宝来地域の人口は7,040人です。本地域の人口はこの10年間（2010年比）で増加しています。

年少人口（15歳未満）の割合は15.7%、生産年齢人口（15歳以上65歳未満）の割合は65.4%、老年人口（65歳以上）の割合は18.9%となっています。

年少人口の割合が町平均（13.2%）より高く、老年人口の割合は町平均（28.7%）よりかなり低くなっています。

資料）住民基本台帳（2020年9月末時点、外国人を含む）



### <地域の現況>

- 第5期総合計画期間では、施設整備として老朽化に伴う宝来保育園の改築が行われ、2019（令和元）年度から認定こども園として開園しています。
- 道路網については、翠柳大橋の開通に伴い周辺道路（宝来東4号道路）が整備され、交通環境はより充実しました。
- スポーツ環境の充実をはかるため、2017（平成29）年度、ひばりが丘緑地にサッカー場を整備しました。
- 地域の西側に音更川、南側に十勝川があり、河川に親しむ環境にありますが、台風や大雨の影響により水害が発生する地区があることから対策が求められており、国では、十勝川と音更川の河畔林伐採や河道掘削などを進めています。
- 地域東側の崖面は、2016（平成28）年度に土砂災害警戒区域および土砂災害特別警戒区域に指定され、2019（令和元）年度から、北海道において急傾斜地崩壊対策事業が行われており、工事の早期完成が求められています。
- 木野市街に隣接した閑静な住宅地として自然環境にも恵まれていますが、人口の増加に伴い、地域への生活利便施設などの誘致が求められています。

### <まちづくりの基本的な方向>

閑静な住宅街と木野市街に隣接した利便性の高い地域という魅力を生かして、良好な生活環境の維持に努めるとともに、河川の治水機能の向上などをはかり、災害に強い地域づくりをめざします。

近年の人口増加に伴う生活利便施設の誘致については、町有地の活用も含め、引き続き関係機関に要請していきます。

### 駒場地域 ～ 農村地帯にある自然に囲まれたのどかな生活環境がある地域

駒場地域は、音更や木野の中心市街地から離れた農村地帯にある市街地です。家畜改良センター十勝牧場が隣接して豊かな自然に囲まれ、景観にも恵まれています。近くには北海道音更高等学校があり、良好な子育て・教育環境がある地域です。

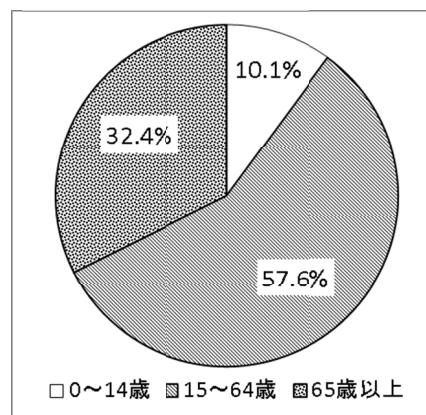
### <人口の動態>

駒場地域の人口は1,143人です。本地域の人口はこの10年間（2010年比）で減少しています。

年少人口（15歳未満）の割合は10.1%、生産年齢人口（15歳以上65歳未満）の割合は57.6%、老年人口（65歳以上）の割合は32.4%となっています。

年少人口の割合は町平均（13.2%）より低く、老年人口の割合が町平均（28.7%）より高くなっています。

資料）住民基本台帳（2020年9月末時点、外国人を含む）



### <地域の現況>

- 第5期総合計画期間では、子育て支援の環境づくりとして、2013（平成25）年度に西駒公園が整備されています。
- 地域の汚水処理を農業集落排水施設により行っていましたが、公共下水道への接続整備が完了し、より安定した処理が可能となりました。
- 毎年の行事として夏まつりが開かれるなど、地域の結束が強く、小・中学校では町内の他校に先駆けていち早くコミュニティ・スクールが導入され、保護者や地域の町民が学校運営に参画しています。
- 交通は、従来の路線バスに加え、2019（令和元）年度から本運行が開始された農村地域予約制乗合タクシーの利用も可能となり、利便性が向上しています。
- 身近なところで買い物をすることが難しくなっていることから、宅配や移動販売の情報の提供が必要です。

### <まちづくりの基本的な方向>

魅力的な自然や保育園から高校まである良好な教育環境など、生活・子育て環境の良さを生かし、地域の実情を踏まえて町民の買い物など生活利便性にも配慮し、活力あるコミュニティの維持・向上に努めるとともに、誰もが安心して生活が送れるよう、安全で快適なまちづくりを進めます。

### 十勝川温泉地域 ～ 温泉地としてさまざまな観光資源を有する地域

十勝川温泉地域は、十勝を代表する観光地である十勝川温泉を中心とした市街地です。北海道遺産であるモール温泉をはじめ、道立十勝エコロジーパークなどの公園や十勝平野が広がる眺望、日高山脈を望む景観など、観光資源に恵まれています。

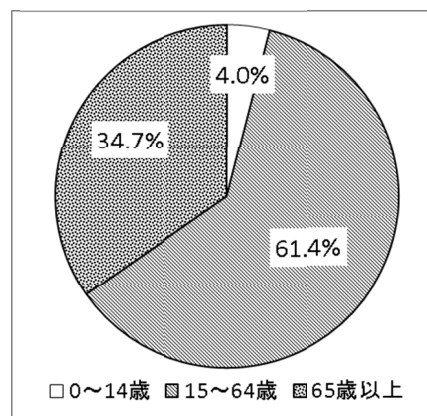
### <人口の動態>

十勝川温泉地域の人口は176人です。本地域の人口はこの10年間で減少しています。

年少人口（15歳未満）の割合は4.0%、生産年齢人口（15歳以上65歳未満）の割合は61.4%、老年人口（65歳以上）の割合は34.7%となっています。

年少人口の割合は町平均（13.2%）よりかなり低く、老年人口の割合が町平均（28.7%）より高くなっています。

資料）住民基本台帳（2020年9月末、外国人を含む）



## <地域の現況>

- 第5期総合計画期間では、官民共同による中心市街地再生事業により、新たな集客拠点施設として市街地の中央部に「ガーデンスパ十勝川温泉」が整備され、2020（令和2）年7月に町内2か所目の道の駅に登録されました。
- 近隣自治体を含めた観光振興や物流の効率化などに向けて、2020（令和2）年10月に、道東自動車道の音更帯広インターチェンジから池田インターチェンジ間における、新たな（仮称）長流枝スマートインターチェンジの事業化が決定されています。
- 十勝川温泉アクアパークにおける河川占用について、2016（平成28）年度に、民間事業者などの営業活動が可能な都市・地域再生等利用区域として指定されたほか、観光区域内において、2018（平成30）年度に、地域全体の観光振興に寄与する施設の立地に対応する十勝川温泉観光開発計画を策定しました。
- ワークショップを活用して、2018（平成30）年度から、花時計の老朽化対策及びトイレの通年利用を目的に、十勝が丘公園の再整備事業に着手しています。
- 2018（平成30）年度に、地域で働く子育て世代の支援を目的として、民間企業による企業主導型保育園が開園しています。
- 多くの観光客が訪れるこの地域では、観光客の滞在や交通に配慮したまちづくりが進められています。また、「美人の湯」や道立十勝エコロジーパークといった公園、丘陵、十勝川、日高山脈を望む景観など、さまざまな観光資源に恵まれていることから、これらを維持・活用する取り組みが求められています。
- 観光関連産業は、本町の雇用や経済を支えるひとつの柱となっていますが、国内外の経済動向の影響も受けやすいため、経営の安定化が課題となっています。新たな感染症については、「十勝川温泉スタイル」安心宣言のもと、対策に取り組んでいます。

## <まちづくりの基本的な方向>

十勝川温泉地域は、観光地として多くのイベントを開催するとともに、市街地を中心とした再整備を行い、集客をはかっておりますが、町民アンケートの結果では、本町の観光地としての魅力づくりについて「重要である」という認識が町民全体にある一方、満足度は低くなっています。こうした町民の強い関心を踏まえ、交流人口の拡大をめざし、ワーケーションなど温泉観光の新たなビジネスモデルを構築し、道の駅の利活用や新たなスマートインターチェンジの供用を視野に入れ、温泉街としての魅力向上をはかるとともに、生活者にとっても住みやすいまちづくりを進めていきます。

## 農村地域 ～ 基幹産業である農業を支える地域

農村地域は、本町の基幹産業である農業を支える地域で、食料生産の場としてだけでなく、洪水や土砂崩れなどの自然災害を防ぐとともに、環境の保全や美しい農村景観の創出、自然の大切さや農業を学ぶ場を提供するなど、重要な役割を担っています。

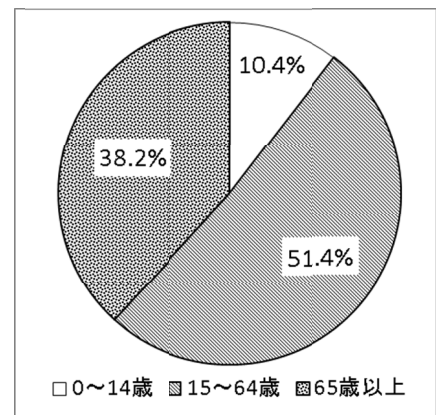
### <人口の動態>

農村地域の人口は4,089人です。本地域の人口はこの10年間（2010年比）で減少しています。

年少人口（15歳未満）の割合は10.4%、生産年齢人口（15歳以上65歳未満）の割合は51.4%、老年人口（65歳以上）の割合は38.2%となっています。

年少人口の割合は町平均（13.2%）より低く、老年人口の割合が町平均（28.7%）よりかなり高くなっています。

資料）住民基本台帳（2020年9月末時点、外国人を含む）



### <地域の現況>

- 第5期総合計画期間では、生活環境において、路線バスなどの公共交通はほとんどの地域で利用できませんでしたが、2019（令和元）年度から農村地域予約制乗合タクシーの本運行が開始され、公共交通網の空白地帯はなくなりました。
- 道路網は、翠柳大橋の開通に伴う道道帯広浦幌線整備計画路線の整備が進んでいます。
- 生活と産業の基盤として、大型農作業機械の走行や車両の交差など支障となっている道路の整備が求められています。
- 情報通信環境については、農村地域情報通信基盤整備事業により、2011（平成23）年度からADSLと同程度の通信は可能となっていますが、スマート農業などを推進し、産業、生活両面でデジタル変革に対応するため、2020（令和2）年度から光ファイバーによる高速情報通信ネットワーク環境の整備に着手しています。
- コミュニティ施設である地域会館については、老朽化が進んでいるため、計画的に長寿命化工事を行っています。
- 閉校した小学校（豊田、昭和、南中音更）について、校舎の有効活用が求められています。

### <まちづくりの基本的な方向>

農村地域は、仕事と生活の場が一致した地域で、力強い農業経営と地域の町民が一体となったコミュニティ機能が強みです。生活環境の維持・向上をはかるとともに、町の基幹産業を支える役割を担った地域として、農業後継者の育成・確保、生産性の向上による経営強化をはかり、農村環境の持つ魅力を生かした多面的機能を発揮させるための地域活動を支援し、農業の振興を基本に据えたまちづくりを進めていきます。